

【専門基礎分野】

科目名 解剖生理学 I		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 人体の発生・構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。			
【目標】 1. 人体の形態・構造・機能の概要を理解する。 2. 人体の恒常性について理解し、体液と電解質の生理機能、生命を維持する為の意義・しくみを理解する。 3. 感覚器の形態・構造・機能を学び、人体における役割を理解する。 4. 体温の維持と恒常性について理解する。 5. 感覚器の形態・構造・機能を学び、人体における役割を理解する。 6. 呼吸器系の形態・構造・機能を学び、生命維持に不可欠なガス交換について理解する。 7. 男性・女性生殖器の形態・構造・機能を学び、その果たす役割を理解する。			
【授業内容】 ・解剖・生理基本(恒常性 体液と電解質 自律神経による調節) ・細胞と組織 ・皮膚・粘膜の構造と機能 ・体温とその調節 ・呼吸器の構造 ・呼吸 ・眼の構造と視覚 ・耳の構造と聴覚・平衡覚 ・味覚と嗅覚 ※生殖器の形態・構造・機能については、病態生理学 女性生殖器系とあわせ学ぶ			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 解剖生理学Ⅱ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 人体の構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。			
【目標】 1. 循環器・血液・リンパの形態・構造・機能を学び生命にどのように関係しているか理解する。 2. 消化器系の形態・構造・機能を学び、人体における消化吸收の意義を理解する。			
【授業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・心臓の構造・機能 ・血液の組成 (赤血球 白血球 血小板 血液凝固) ・消化器系(食道、胃、小腸・大腸、肝臓、膵臓、胆道、腹膜等)の構造・機能 			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 解剖生理学Ⅲ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 人体の構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。			
【目標】 1. 内分泌系の形態・構造・機能を学び、身体の発育・成長・物質代謝の調整・統制について理解する。 2. 泌尿器系の形態・構造・機能を学び、尿の生成と排尿の機序を理解する。 3. 骨格系、筋系の形態・構造・機能を学び、人体における役割を理解する。 4. 神経系の形態・構造・機能を学び、人体各部の連結・調整の役割を理解する。			
【授業内容】 ・ホルモンについて ・下垂体 甲状腺 副甲状腺 副腎の構造・機能について ・腎臓の構造・機能について ・尿生成のメカニズム ・排尿路 ・体液の調整 ・骨格とは ・骨の連結 ・骨格筋 ・体幹・上肢・下肢・頭頸部の骨格と筋 ・筋の収縮 ・脳の構造 ・ニューロンの構造 ・脳神経の働き			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院 【内分泌系の講義は以下のテキストも持参】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 運動生理学		担当者 非常勤講師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
【概要】 《運動生理学》解剖生理学、生化学の知識をもとに運動が人体に及ぼす影響について学ぶ。			
【目標】 《運動生理学》1. 運動が人体の生理機能に及ぼす影響を理解する。 2. 各発達段階における健康と身体運動について理解する。 3. 疲労のメカニズムを知り、疲労回復と予防について理解する			
【授業内容】 《運動生理学》 <ul style="list-style-type: none"> ・筋の特性 ・筋の収縮と糖一脂質代謝 筋収縮の特性 ・細胞の興奮 ・エルゴメータと筋活動 ・嫌氣的、好氣的代謝 ・METsとRQ 			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 《運動生理学》系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観テスト			
【備考】			

科目名 生化学		担当者 長岡赤十字病院 検査技師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
【概要】 人体の構成部分である化学物質の性状とその分布及び代謝について学ぶ。			
【目標】 1. 生体を構成している物質の化学的性質と機能を理解する。 2. 生体の産生する物質の化学的性質と機能を理解する。 3. 生体の活動の際に起こる化学的変化とエネルギーの変動について理解する。 4. 物質代謝について理解する。 5. 活動に必要なエネルギーの発生と利用について理解する。			
【授業内容】 ・生化学総論 ・生物を構成する物質 糖質 脂質 タンパク質 核酸 無機質 ホルモン ・生体内の物質代謝 代謝とは 酵素 ビタミンと補酵素 糖質代謝 脂質代謝 蛋白代謝 核酸代謝 ポルフィリン代謝 遺伝情報			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 ナーシンググラフィカ臨床生化学 メディカ出版			
【評価方法】 客観試験			
【備考】 講師名は科目別講師一覧表を参照			

科目名 病理学		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 疾病の成り立ちを生理学や生化学の知識と関連づけて理解し、病因と病変の特徴を理解する。			
【目標】 1. 病理学の概念について理解する。 2. 疾病の原因について理解する。 3. 物質代謝の障害により生体は、細胞・組織の機能低下と形態上の変化を起こすことについて理解する。 4. 循環が正常に行われるための条件を把握し、それが崩れたときに起こる生体の状態について理解する。 5. 炎症は生体の防御反応であり、組織細胞の修復過程であることを理解する。 6. 免疫の意味及び免疫応答、抗原・抗体・免疫的各細胞について理解する。 7. 腫瘍について理解する。 8. 先天異常の成立する条件・種類・遺伝について理解する。			
【授業内容】 ・病理学とは何か ・細胞障害と細胞増殖 ・組織、細胞の修復と再生 ・循環障害 ・免疫機構の異常 ・炎症 ・感染 ・腫瘍 ・遺伝と先天異常 ・代謝異常			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 はじめの一步の病理学 羊土社			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 病態生理学 I		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30 時間/1 単位/15 回	講義・演習	
【概要】 疾患の原因や診断治療について基本的な知識を学ぶ。			
【目標】 1. 主な呼吸器系疾患の原因や診断・治療について理解する。 2. 主な循環器系疾患の原因や診断・治療について理解する。 3. 主な血液リンパ系疾患・自己免疫疾患(膠原病)の原因や診断・治療について理解する。			
【授業内容】 【呼吸器系疾患】 呼吸のしくみ インフルエンザ 喘息 結核 肺炎 COPD 呼吸不全 胸膜炎 塵肺 間質性肺炎 肺腫瘍 【循環器系疾患】 心不全 ショック 高血圧 心筋梗塞 狭心症 先天性心疾患 後天性心疾患 【血液リンパ系疾患・自己免疫疾患】 リウマチ 貧血 再生不良性貧血 白血病 悪性リンパ腫 骨髄腫 出血性・血栓性疾患 輸血 膠原病			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 【呼吸器系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 【循環器系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 【血液リンパ系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液/造血器 【膠原病】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 病態生理学Ⅱ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 疾患の原因や診断・治療について基本的知識を学ぶ。			
【目標】 1. 主な循環器呼吸器外科系疾患の原因や診断・治療について理解する。 2. 主な内分泌系疾患の原因や診断・治療について理解する。 3. 主な女性生殖器系疾患の原因や診断・治療について理解する。 4. 主な脳神経系疾患の原因や診断・治療について理解する。			
【授業内容】 【循環呼吸外科】 肺腫瘍 先天性心疾患 後天性心疾患 【内分泌系】 糖尿病 副腎疾患 【女性生殖器系疾患】 子宮癌 乳癌 卵巣腫瘍 子宮筋腫 膣炎 子宮内膜症 【脳神経系疾患】 脳血管障害 脳腫瘍 頭部外傷 パーキンソン病 重症筋無力症 筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 【循環呼吸外科】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 【内分泌系】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院 【女性生殖器系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 【脳神経系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 【脳神経系外科】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			

【評価方法】

客観試験

【備考】

科目名 病態生理学Ⅲ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 疾患の原因や診断・治療について基本的知識を学ぶ。			
【目標】 1. 主な消化器疾患の原因や診断・治療について理解する。 2. 主な腎・泌尿器系疾患の原因や診断・治療について理解する。			
【授業内容】 【消化器系疾患】 胃潰瘍 潰瘍性大腸炎 肝炎 肝癌 肝硬変 膵炎 腸閉塞 食道癌 胃癌 膵臓癌 大腸癌 胆石 急性虫垂炎 痔核 先天性食道閉鎖症 先天性胆道閉鎖症 ヒルシュスプリング病 鎖肛 【泌尿器系疾患】 腎炎 ネフローゼ症候群 腎不全 尿路結石 腫瘍(腎臓・膀胱・精巣) 前立腺肥大症			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 【消化器系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 【消化器系外科・小児外科】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院(外科・小児外科) 【泌尿器系疾患】【泌尿器系外科】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 指定なし			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 病態生理学Ⅳ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 疾患の原因や診断・治療について基本的知識を学ぶ。			
【目標】 3. 主な骨筋系疾患の原因や診断・治療について理解する。 4. 主な皮膚科疾患の原因や診断・治療について理解する。 5. 主な眼科疾患の原因や診断・治療について理解する。 6. 主な歯科疾患の原因や診断・治療について理解する。 7. 主な耳鼻科疾患の原因や診断・治療について理解する。			
【授業内容】 【骨筋系疾患】骨折 脊椎損傷 慢性関節リウマチ 椎間板ヘルニア 骨肉腫 骨粗鬆症 変形膝関節症 【皮膚科疾患】熱傷 湿疹 皮疹 アトピー性皮膚炎 帯状疱疹 STD 腫瘍 【眼科疾患】屈折色覚異常 白内障 緑内障 網膜剥離 流行性角結膜炎 視力障害 【歯科疾患】う歯 義歯 口蓋裂 辺縁性歯周炎 【耳鼻科疾患】慢性副鼻腔炎 喉頭腫瘍 中耳炎 アレルギー性鼻炎 メニエール病			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 【骨筋系疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 【皮膚科疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔12〕 皮膚 医学書院 【眼科疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔13〕 眼 医学書院 【歯科疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔15〕 歯・口腔 医学書院 【耳鼻科疾患】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉 医学書院指定なし			
【評価方法】 客観試験			

科目名 病態生理学Ⅴ		担当者 長岡赤十字病院 医師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30 時間/1 単位/15 回	講義・演習	
【概要】 事例患者を取り上げ、障害を起こしている臓器の構造と機能、疾病(または病態)の原因、症状、検査、治療について学ぶ。また、グループワークを通して、患者の状態に応じて必要な知識を想起する力(主体的学習力)、想起した知識を統合する力(統合力)を養う。			
【目標】 1. 事例患者の疾病・検査・治療を学習し、疾病の状態、検査・治療の目的、予後について理解する。 2. 患者の状態を理解するために必要な知識と、その活用の仕方がわかる。 3. 演習での学びと、今後の学習に向けて、自己の課題と方向性を明らかにする。			
【授業内容】 1. グループごとに提示された事例患者について、臓器の構造と機能、病態、検査、治療について学習する。 慢性閉塞性肺疾患 心筋梗塞 くも膜下出血 パーキンソン病 肝硬変 脊髄損傷 腎不全 糖尿病 など 2. 学習内容の発表・質疑応答を通して、事例患者の理解を深める。 3. 演習のまとめ			
【教授方法】 演習 個人ワーク グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 指定なし			
【評価方法】 出席状況 課題レポート			
【備考】 解剖生理学・病態生理学・病理学・薬理学など、既習の講義内容を十分に活用しましょう。 グループメンバー同士で教えあい、理解しあい、協力し合ってすすめましょう。 わかること、わからないことを明らかにし、わからないことや疑問点を一緒に解決していきましょう。			

科目名 微生物学	担当者		実務経験
	長岡赤十字病院 医師		○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
<p>【概要】 微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の定義及びその獣類と一般的性状について理解する。 2. 感染を構成する諸要因・感染予防・治療・検査について理解する。 3. 免疫と感染の関係について理解する。 4. 各種微生物の種類・抵抗性・病原性・治療・予後について理解する。 			
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の定義及びその獣類と一般的性状について理解する。 2. 感染を構成する諸要因・感染予防・治療・検査について理解する。 3. 免疫と感染の関係について理解する。 4. 各種微生物の種類・抵抗性・病原性・治療・予後について理解する。 <p>【授業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌の性質 ・真菌・原虫・ウイルスの性質 ・感染と感染症 ・免疫 自然免疫 ・感染経路、消毒、滅菌 ・病原細菌 ・病原真菌、原虫 ・DNAウイルス ・微生物 			
<p>【授業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌の性質 ・真菌・原虫・ウイルスの性質 ・感染と感染症 ・免疫 自然免疫 ・感染経路、消毒、滅菌 ・病原細菌 ・病原真菌、原虫 ・DNAウイルス ・微生物 			

<p>【教授方法】 一斉講義</p>
<p>【教授方法】 一斉講義</p> <p>【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕 微生物学 医学書院</p> <p>【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕 微生物学 医学書院</p>
<p>【評価方法】 客観試験</p>
<p>【備考】</p>

科目名 薬理学 I		担当者 長岡赤十字病院 薬剤師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
【概要】 人体への薬物のはたらきかけ及び薬物への生体側の対応について学ぶ。			
【目標】 1. 薬理学の概念について理解する。 2. 薬理作用について理解する。 3. 薬物に影響を及ぼす要因について理解する。 4. 薬の有害作用について理解する。			
【授業内容】 1. 薬物による病気の治療 2. 薬理の作用 3. 薬物の吸収・分布・代謝・排泄 4. 薬効に影響する因子 5. 薬物中毒(薬害) 6. 薬の管理と新薬の誕生 7. 滅菌・消毒			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 授業内容 1～6 ・系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 授業内容 7 ・系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔4〕 微生物学 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 薬理学Ⅱ		担当者 長岡赤十字病院 薬剤師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 薬物治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
【目標】 1. 薬の適応について理解する。 2. 各種の薬剤について理解する。			
【授業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・抗感染症薬 ・抗がん剤 ・免疫治療剤 ・抗アレルギー薬・抗炎症薬 ・末梢での神経活動に作用する薬剤 ・中枢神経系に作用する薬剤 ・心臓・血管系に作用する薬剤 ・呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬剤 ・物質代謝に作用する薬剤 ・麻薬性鎮痛剤 ・救急の際に使用される薬物 			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 栄養学		担当者 長岡赤十字病院 管理栄養師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
【概要】 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康のかかわりについて学ぶ。 健康の維持増進、健康障害の治療、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。			
【目標】 1. 栄養素とその機能、食品の栄養特性を理解する。 2. 栄養状態の評価、判定について理解する。 3. 健康レベル、ライフサイクルにあった栄養、食事について理解する。 4. 食事療法の基本を理解する。			
【授業内容】 ・栄養素の種類とはたらき ・栄養状態の評価、判定の目的・方法 栄養ケア・マネジメント ・ライフステージと栄養 ・病院食、食事療法 ・健康づくりと食品・食事・食生活			
【教授方法】 一斉講義			
あ【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 医学書院			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 災害医療論 I		担当者 長岡赤十字病院 医師 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・前期	45時間/1単位/回	講義・演習	
【概要】 災害看護の基礎的な知識・技術、態度を統合し、個人そしてチームの力を活かし、設定された災害状況下における救護活動をおこなうことで、赤十字の一員として、国籍、宗教の別なく、人々の苦痛を軽減し、個人を尊重する災害看護について学ぶ。また、災害時におこりうる様々な対象のニーズ(女性や子ども、セクシャルマイノリティ、旅行者など)への対応や、限られた物的人的資源の中での活動を通して、救援組織全体の統括下での活動の必要性、チーム内、他組織との連携の必要性について考える。さらに、災害にあわれた被災者への状況を察した思いやりのある態度とともに、救援者自身の Well-being を保つセルフケアおよび救援者同士の相互支援など、災害時の特殊な状況下でのストレス緩和のあり方についても考える機会とする。			
【目標】 1.人間の尊厳、安全を守れるよう、多面的(身体的、心理社会的側面、スピリチュアルな側面、環境面)のアセスメントをおこない、柔軟に対応する。 2.チームの一員として自分の役割を果たすとともに、チーム内、他組織等と連携し、継続性をふまえた活動をおこなう。 3.自分自身の Well-being を保つとともに、チーム内および被災者に対し心理社会的支援をおこない、ストレスを緩和する。			
【授業内容】 日本赤十字社支部職員、長岡赤十字病院 DMAT 隊員、こころのケア指導員等の協力を得て、大規模災害を想定し、避難所を作成した上で、学生が赤十字救護班、被災者役等を担い、実践的な災害救護活動のシミュレーションを体験する。			
【教授方法】 演習			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 統合 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院			
【評価方法】 筆記試験			

科目名 医療概論		担当者 非常勤講師 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/2単位/15回	講義・演習	
【概要】 医療倫理の重要性について学ぶ。 医療・医学のしくみや現代医療の問題、あり方について学ぶ。			
【目標】 1. 医療倫理の歴史について理解する。 2. 医療倫理の原則を理解する。 3. 臨床事例に対して医療倫理の原則に基づき考える。 4. 「医療とは」を考える。 5. 現代日本の医療システムについて理解する。 6. 現代医療の問題、あり方について理解する。			
【授業内容】 ・医療の歴史 ・医療倫理の原則 ・事例討議 ・「医療とは」 ・医療・医学の歴史 ・日本の医療システム: 社会保障制度、医療制度、医療改革 ・現代の医療: がん治療の現状、移植医療、再生医療、対外受精、人工臓器、医原病、 出事前診断、医療事故、脳死、延命治療、患者の権利、自己決定、情報公開、QOL 等			
【教授方法】 一斉講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 《宮坂》 医療倫理学の方法 医学書院 《小越》 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院			
【評価方法】 出席 ・ 客観試験・レポート等			
【備考】			

科目名 公衆衛生学		担当者 長岡地域振興局 健康福祉環境部 職員	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 公衆衛生に関連する統計情報と組織的な保健活動について学ぶとともに、疾病を予防し、人々の健康を保持増進させる為の環境整備の重要性を学ぶ。			
【目標】 1. 公衆衛生の目的、重要性を理解する。 2. 健康の保持増進に望ましい生活環境について理解する。 3. 保健統計の基本的な考え方を明らかにするとともに、国民生活と保健医療に関連する統計・指標について理解する。 4. 公衆衛生政策、保健行政について理解する。			
【授業内容】 ・公衆衛生の目的とその方法 ・疫学と健康指標 ・健康づくり ・感染症 エイズ ハンセン病 結核 ・感染症対策 予防接種 ・母子保健 ・難病 難病対策 ・学校保健 ・産業保健 ・精神保健 ・がん対策 ・職業病 ・生活環境 ・健康危機管理			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 開講前に提示			
【評価方法】 客観試験			
【備考】			

科目名 社会福祉		担当者	実務経験
		長岡赤十字病院 事務部 高齢者総合ケアセンター こぶし園職員	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
【概要】 人間にとっての福祉の意味を学び、社会福祉制度・社会保障制度について理解する。			
【目標】 1. 社会福祉の変遷の中から社会福祉の意味を理解する。 2. 社会保障、社会福祉の制度について理解する。 3. 社会福祉の対策とそのサービスについて理解する。 4. 医療ソーシャルワークについて理解する。			
【授業内容】 ・社会福祉の原点 ・社会保障制度と社会福祉 ・世界の福祉から見たこれからの方向 ・医療福祉 ・介護保険法の仕組みと実際 介護認定 ・社会福祉の分野とサービス 障害者福祉 高齢者福祉 児童家庭福祉 ・所得保障 ・公的扶助			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉 医学書院			
【評価方法】 客観試験 リポート			
【備考】			

科目名 関係法規	担当者		実務経験
	長岡赤十字病院 社会福祉士・ 薬剤師専任教師 長岡地域振興局 健康福祉環境部 職員		○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<p>【概要】 人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、わが国の保健医療福祉に関する諸制度を幅広く理解することは、人々の健康の保持増進、回復を支援する看護者にとって必要不可欠である。講義では、看護に携わるものにとって最も重要である保健師助産師看護師法をはじめ、医事や衛生、社会保障など看護に関連する法令を広く学ぶ。</p>			
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念を理解する。 2. 衛生法と厚生行政のしくみについて理解する。 3. 看護師助産師看護師法をはじめとする看護法、医師法・医療法、関係資格法について理解する。 4. 地域保健法、感染症の予防等に関する法律を含む保健衛生法について理解する。 5. 薬事法を含む薬務法について理解する。 6. 食品安全基本法、食品衛生法をふくむ環境衛生法について理解する。 7. 社会保障のしくみと、健康保健法、老人保健法、介護保険法、障害者基本法などの社会保障法について理解する。 			
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 2. 衛生法と衛生法と厚生行政のしくみ 3. 看護法(看護師助産師看護師法など)医師法・医療法、関係資格法 4. 保健衛生法(地域保健法、感染症の予防等に関する法律など) 5. 薬務法(薬事法など)。 6. 環境衛生法(食品安全基本法、食品衛生法など) 7. 社会保障のしくみと社会保障法(健康保健法、老人保健法、介護保険法、障害者基本法など) 			
【教授方法】 講義			
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>開講前に提示</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 医学書院</p> <p>私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法 第2版 日本看護協会</p>			
【評価方法】 筆記試験			
【備考】 。			

科目名 災害医療論Ⅱ		担当者	実務経験
		専任教師 日本赤十字社救急法指導員	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・後期	15時間/1単位/回	講義・演習	
【概要】 災害救護技術の一つとして、自動体外式除細動器(Automated external defibrillator:以下AED)を使用した一次救命処置を含む、日本赤十字社救急法を学ぶ。			
【目標】 1. 赤十字救急法講習受講により、心肺蘇生法・止血等、災害救護に活用できる知識・技術を身につける。			
【授業内容】 1.赤十字救急法基礎講習会 2.救急法救急員養成講座			
【教授方法】 講義 実技			
【使用テキストと参考文献】 救急法講習教本			
【評価方法】 筆記試験・実技試験(日本赤十字社救急法)			
【備考】			